

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年5月19日

事業所名 オリーブまなびの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%	0%	・利用児童の時間帯・曜日によりコロナ感染対策も考慮しながら、部屋割りを工夫し適切なスペースが確保できるようにしている	今後も、児童の利用曜日や時間を調整しながら、適切なスペースの確保に努めます。
	2	職員の配置数は適切であるか	67%	33%	職員の休みが重ならないよう、法令遵守の人数が確保できるようお互い協力しシフト調整している。	個別サポートの必要な児童がいる場合は、少なく感じることもある。1人1人の職員のスキルを向上し、マンツーマンではなく、2~3人の児童を見れるようにしていきたい。また、利用児童の時間が過密にならないような調整も行っていく。
	3	合理的配慮の視点に基づく環境整備がなされているか	100%	0%	子どもの特性に応じて、学習椅子や机の高さを変えられるようになっていく。必要に応じてパーティションの活用や、1人の学習空間を準備している。	非常勤の職員にも、個別の合理的配慮について伝えていく。また常勤職員も合理的配慮の視点をしっかり持つように、研修や現場で学ぶ機会を設けていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%	常勤職員で話し合い、業務がスムーズに行えるように意見を出し合っている。	非常勤職員に意見を求められる機会がほとんどないので、今後は非常勤職員も参画していける様に、仕組みを考えていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	今回初めてアンケートを実施した。	今回のアンケート結果を職員全体で共有し、業務改善に努めていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで誰もが閲覧できるようにしている	ホームページで閲覧できるよう、次年度も行っていく。
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に参加させてもらっている。年間計画で研修の内容を決め、実施している。	zoom等で研修の機会が減らないように今後も年間計画に沿って研修を行っていく
適切な支援の提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%	アセスメントに基づき計画を立てている。	各職員が客観的な視点で分析できるように、現場での教育や研修等で専門性を高められるようにしていく。
	9	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	67%	33%	JSI-Rや等を使用している	ツールを活用できるように、職員で学ぶ機会を作っていく
	10	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	皆で意見を出し合っている。意見を出せる職員に、偏りがみられる。	早めに計画できるよう、今後はもっとチームで連携が取れるように会議等を効果的に設定していく。
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	土曜・祝日のプログラム・どの位の頻度で外出をいれるか等、工夫し考えている 外部講師を招いたりし、出前授業を行ったり、福祉関係者から出ない学びの機会が持てるようにしている。	子どもが楽しく取り組めるように、教材の工夫していく。教科学習以外の学びも今後も考え行なっていく。
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100%	0%	土曜・祝日のプログラム・小中高に合わせたプログラム等工夫している	今後も発達や年齢に応じたプログラムを設定していく
	13	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動プログラムが考えられているか	100%	0%	基本は個別プログラムだが、プログラムの中で、小集団でのSSTや、外出活動を組み合わせている	今後も個別プログラムだけでなく、集団プログラムも組合せて行えるように工夫していく
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	朝に申し送りを行い、その日利用の児童の支援内容について引継ぎシート等を用い確認している	非常勤職員も支援に入る前に必ず確認するよう業務の流れを構築していく
	15	支援終了後、職員間で必ず打合せをし、行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	支援終了後に引継ぎシートを記入し、翌日に振り返りができるようにしている。	引継ぎシートの充実を図り内容を深めていく
16	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	67%	33%	その日行ったプログラム内容を細かく記録にしているようにしている。	記録を活かし、検証や改善にしっかり繋げていけていない部分があるので、申し送りの際に職員全体で共有し検証していきけるようにしていく	

	17	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%	計画に沿って行っている	必要に応じて行っていく
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	100%	0%	組み合わせで行えるように、計画に組み込まれている	ガイドラインの基本活動の内容を職員全体で共有していき、組み合わせを意識できるように工夫していく
関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%	0%	児童発達支援管理責任者が出席している	会議での内容を職員にしっかり伝達し、参加しない職員ともしっかりと共通理解できるようにする
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	67%	33%	利用児童やご家族に都度確認したり行事予定の把握に努めている。	送迎を行っていない為、まだ学校の行事等の把握が弱いところがあるので、年間行事予定表を保護者様にご協力頂き保管するようにしていく
	21	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	100%	0%	未就学からの利用の際は、通園施設に訪問し、担任の先生からお話を伺っている	今後も適宜行っていく
関係機関や保護者との連携	22	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	67%	33%	まだ該当児童がいない	該当児童が出た場合は、今後行っていききたいと思う
	23	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	67%	33%	児童発達支援センターを利用の方がいた場合は、アドバイスを頂いている	今後も適宜行っていく
	24	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	33%	67%	学童との交流はないが、地域交流イベントを行い、地域の子どもと一緒に過ごせる企画を行なった	感染対策を考えながら、イベント開催等で地域の子どもと活動できる機会を作っていきたい
	25	事業所連絡会、(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	100%	0%	管理者が協議会の構成委員になっており、参加している	今後も継続し参加予定
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	お迎えに来られた時に伝えたり、記録の中で見えている課題をお伝えしたりし、共通理解が持てるようにしている	専門的な立場からの助言ができるように、研修等に参加し、職員の質の向上を図る人材育成に努める
	27	保護者に対して学習会・研修会等の支援や案内を行っているか	100%	0%	所属している放デイ連絡会より案内のある研修のお知らせを案内したり、事業所独自に、講師の方を招き講習会を実施した	今後も講師を招いたりし、研修の機会を作っていく予定にしている
保護者への説明責任等	28	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	契約時に説明している。その他、必要に応じて適宜行っている	今後も継続し行っていく
	29	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	事業所内相談や、家庭訪問支援等を行っている。また電話での相談も、適宜受けている	今後も継続し行っていく
	30	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%	0%	コロナ禍を勘案しながら、少人数で開催した	もう少し開催の回数が増やせるように、リモート等も含め考えていく
	31	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	苦情が寄せられた時は、管理者が迅速に対応している。苦情の体制は契約時に説明している	今後も継続し行っていく 管理者以外の職員も体制の把握を再度理解できるように、内部研修を実施する
	32	定期的にホームページ等で、活動概要や行事予定等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	ホームページ、インスタグラムを活用し発信している	インスタグラムは、活動の様子や情報がすぐに分かっていいと好評をいただいているので、今後も継続し発信に努めます
	33	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	職員全体に個人情報の取扱いについて周知している。画像等は都度削除し、管理者に報告している	非常勤職員も含め、雇用契約時に説明を行っているが、適宜注意喚起を行っていく
	34	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	行事のお知らせ等は、保護者向け、中高生向けと2種類作成している。子ども達にも伝わりやすいように、簡潔に手順を細分化し提示するようにしている	個々の発達に応じたタイムスケジュールを用いて、今後も情報伝達のための配慮を行っていく

	35	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	100%	0%	地域交流イベントや、子育てサロンを開催し地域の方や子どもに来て頂いた	今後、地域に向けた子育てサロンの定期開催を目指したい
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	67%	33%	職員誰もが確認できる場所にファイリング保管されている。	保護者への周知までには至っていないので、保護者に配布できるマニュアルを作成する。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	33%	67%	職員で地震津波を想定しての、避難訓練を実施した	職員のみでの避難訓練しか行っていないので、緊急事態に備え年に1度は子ども達との避難訓練を実施する
	38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	年に1度人権擁護研修を受けられるよう、研修の年間計画に組み込まれている	今後も継続し年1回の人権擁護研修を実施し、全職員が受講できるようにする
	39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	33%	67%	現在対象の児童がいないので、説明は行っていない	今後対象児童が出た場合は、組織的に個別に応じた身体拘束の内容を話し合い、計画にも記載を行う
	40	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	アセスメントの際に、アレルギー等の確認を行っている。粘土が変更するときアレルギーの有無の再確認を行っている	今後も継続して行なっていく。またクッキングの際に再度確認するようにしていく
	41	ヒヤリハット、事故の事案を収集し再発防止等について事業所内において共有しているか	100%	0%	ヒヤリハットではなく、「今日の気づき」とし、ヒヤリハットが出しやすい風土を作る工夫をしている。日々のヒヤリハットを記録に残し、申し送りで情報を共有し防止策を確認している	今後も継続し行っていく